

人権啓発センター だより

平成26年2月

No.2

(公財) 高知県人権啓発センター



今を生きる

教育心理学者の伊藤隆二先生は、「今自分がなすべきことを懸命にやるという生き方が最高なのである。理想の自分を頭に描き、今なすべきことをいい加減にするなら永遠に真実の自己を全うすることはない。」と言っています。大切なのは今ここに生きている自分を良しとし、自己肯定から出発するのが正しいのではないかと思います。過去を振り返ってみて、こうすれば良かったと思って後悔してもどうすることもできません。未来の理想の自分の姿を思い描くだけでは何も変わりません。しかし、「今を生きる」ことは自分の意思で充実させることができるのです。「今が一生」という気持ちで今を本気で生きることの過程が大切なのであり、その積み重ねの上に未来が豊かに広がるのだと私は考えています。

(事務局長 福田)



人権あれこれ

2013年12月6日に、南アフリカ共和国のネルソン・マンデラ元大統領が亡くなった。

人種差別撤廃を実現するために、27年間余りの獄中生活にも怯まず、アパルトヘイト（人種隔離）撤廃闘争に自らの人生を捧げ、1991年についにアパルトヘイトを終結させた巨人である。

さまざまな肌の色の人々が、虹のように調和して生きる「虹の共同体」をめざしていた彼の訃報に、世界中の人々から感謝と尊敬の声が寄せられた。

もう20年以上も前に、アパルトヘイト問題を取り上げた映画「遠い夜明け」を観たことがある。この映画は実話で

南アフリカ共和国で殺害された、最も著名な黒人解放活動家スティーブ・ビコと白人記者ドナルド・ウッズとの交友をベースに、この問題の理不尽さをえぐり出していた。

エンディングで、ビコも含め逮捕拘留中に死亡した反アパルトヘイト活動家たちの名前と死因が次々と画面に映し出されていくが、ひょっとしてマンデラさんもその中の一人になっていたかもしれない。

人権獲得への闘いは、長くきびしく多くの犠牲者を伴うが、今後もその歩みがとどまることはない。

(研修講師 堀川)



じんけんライブラリー

一押し本

めざせ！ポジティブADHD

著・イラスト／あーさ 監修／山下裕史朗、水間宗幸
書肆侃侃房（2,100円）

最近、注目されているADHD（「注意欠陥多動性障害」）。当事者『あーさ』が、その特徴と克服法を分かりやすくギャグマンガで解説。当事者やその家族、学校の先生はもちろん、コミュニケーションで悩んでいる人、ポジティブな生き方を望む人にもオススメ。

（研修講師 中西）



ちょっといい話

土佐市の戸波識字学級生が詠み句をつづった「識字かるた」が出来上がった。

「花という文字をおぼえて 世界が変わる」は、西村宏子さん（78）が自身の体験を詠んだ。『花がきれい』と言われても『きれいに決まっちゃうろう』としか思えなかったのが、花という字を学んでからは、本当に美しいと思えるようになったんです」

かるたの絵札は、人権学習で識字学級生と交流を深めていた戸波小学校の6年生が担当。ことし3月の卒業生21人が手分けして描き上げた。

土佐市人権教育推進協議会が製品化

を進め、今月に入って戸波中学校に進んだ絵札担当の6年生たちに完成品が贈られた。手渡した西村さんは「私らに詠み札が書けるか心配しながら始めましたが、ひ孫に本を読めるのも識字のおかげと思うたら、どんどん浮かんできた。このかるたで、私らのそんな思いも知ってもらえたら」と感慨ひとしおだ。

平成25年12月25日

高知新聞夕刊（塚地和久記者）より

※この「識字かるた」には、当センターの人権ふれあい支援事業の補助金が活用されています。



事業報告

ピックアップ

人権啓発映画をテレビ放映しました

マスメディアを活用した人権啓発として、人権啓発映画をテレビ放映し県民の人権問題に対する意識を高めることを目的とした事業を行っています。

本年度は3回放映しました。第1回は6月15日（土）「めばえの朝（あした）」、内容は同和問題・男女共同参画で、相互理解の大切さやすばらしさが描かれました。第2回は9月7日（土）「桃香の自由帳」、内容は共生社会と人権で、人と人とのつながりの大切さが描かれました。第3回は11月9日（土）「一枚の絵てがみ」、内容は高齢者問題・外国人問題で、ふれ合いと支え合いの街づくりをテーマに物語が展開されました。どの回も放送を視聴した人からは、身近な人権問題であり、深く考えさせられる内容でしたとの感想を頂きました。

（研修啓発課 高見）

ピックアップ

人権啓発研修ハートフルセミナーを開催しました

ハートフルセミナーは、県民を対象に、人権問題に対する興味関心を高め、人権尊重の地域社会づくりに資することを目的とした研修であり、5講座開催しました。

第5講座「フツーの子の思春期」は、島根大学教授の岩宮恵子さんに、最近の思春期の子どもの『ぼっち』（ひとりぼっち）と『イツメン』（いつものメンバー）について話していただきました。平成7年度から続けている小・中・高校のスクールカウンセラーとしての実体験を交えながら、アニメを使っの講演はとても興味深いものとなりました。

他にも、NHK「介護百人一首」司会者のフリーアナウンサー・小谷あゆみさんによる「老いをイキイキ！介護の達人は人生の達人」、漫画家で発達障害ADHD当事者・あーささんによる「発達障害とポジティブに付き合う」、ベストセラー作家・菅原裕子さんによる「子どもの心の育て方」、進行性の弱視で視力を失ったピアニスト・前川裕美さんによる「夢見る力を信じて」を開催し、多くの方にご来場いただき全日程を終えることができました。

（研修啓発課 谷脇）

ピックアップ

人権啓発研修ヒューマンパワー育成講座を開催しました

ヒューマンパワー育成講座は、人権の視点をもって企業力を高めていく人材を育て、所属する企業、団体内外での人権啓発活動を通して、人権尊重の社会づくりに寄与することを目的とした連続講座です。

多くの企業や団体、個人の方にお申込みいただきました。第3・4講座「働きがいのある職場づくり」では、自分の気持ちや意見を相手の権利を侵害することなく、誠実に率直に対等に表現することを意味する『アサーティブネス』について、トレーニングを行いました。講師は、NPO法人アサーティブジャパンの牛島のり子さんで、受講者それぞれの事例に対して具体的な方法を細やかに伝えていただき、午前と午後の長時間でしたが「職場だけでなくプライベートでも使える」という感想も多く、良い講座となりました。

他には、「参加型で考える研修のすすめ方」「失敗しないクレーム初期対応の法則」「人と人の関わりを生むコーチング研修」をテーマに講座を行いました。職場や家庭などのいろんな場面で生かせる内容を開催することができました。

（研修啓発課 谷脇）



Information お知らせ



啓発冊子の紹介

平成25年度人権啓発シリーズ集

当センターでは、毎年度、身近な人権課題について有識者の方々に執筆いただいたコラムを「人権啓発シリーズ」として高知新聞に掲載した後、これを編集した啓発小冊子「人権啓発シリーズ集」を作成しています。

本年度は、昨年6月から12月まで合計7回掲載したコラムを編集して次のとおり「平成25年度人権啓発シリーズ集」を発行します。

ご希望により無料配布しますので、是非ご覧ください。

- 発行 平成26年3月
- 内容 子どもの人権のコラムでは現代の子どもたちの心に働きかけていくために大切なことを、また、障害者の人権のコラムでは、障害のある人たちの「人として大切にされ普通に暮らせる社会の実現」や「人権が守られる」ために大切なことや、その他にも言葉での人権侵害についてや女性の人権、高齢者の人権について掲載しています。

(企画啓発課 竹村)



じんけんライブラリー 利用案内

図書、視聴覚教材の貸し出しを行っていますので
ぜひご利用ください

- 図書
1人5冊以内で、期間は2週間以内です。
- ビデオ・DVD
1人2巻以内で、期間は2週間以内です。直接来所できない場合は送付もいたしております。
(送料は利用者のご負担となります)



ホール案内

各種研修会等にご利用ください

- 収容人員
270名（机を使用する場合は180名）
- 設備
放送設備、スクリーン、冷暖房
- その他
使用料、利用時間等についてはHPでご確認ください。

問い合わせ先

〒780-0870 高知市本町4丁目1番37号

公益財団法人 高知県人権啓発センター

E-mail : center@kochi-jinken.or.jp

TEL 088-821-4681 FAX 088-821-4440

HP : <http://www.kochi-jinken.or.jp>